町を支えるウニ漁業の課題

～「安定供給」を目指して～

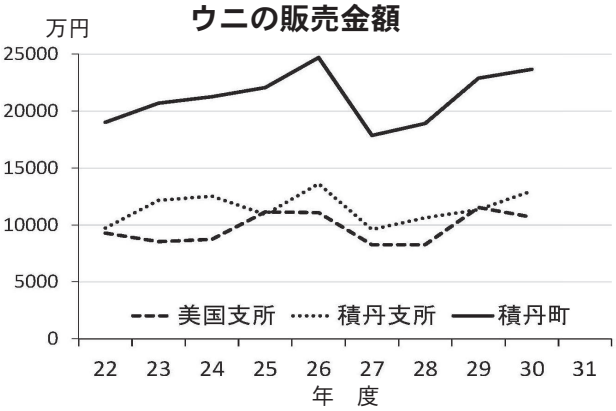
ウニ漁業の現状

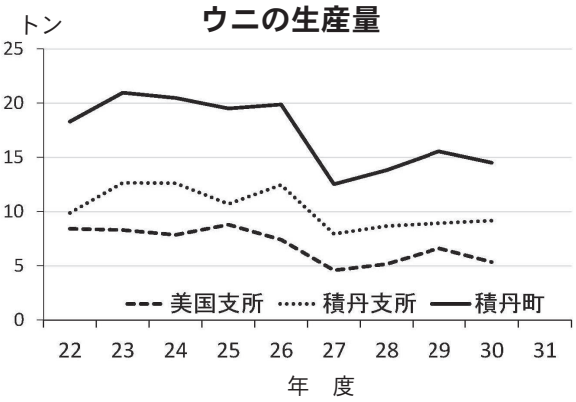
ウニは、積丹町の経済を支える重要な漁業資源の一つです。

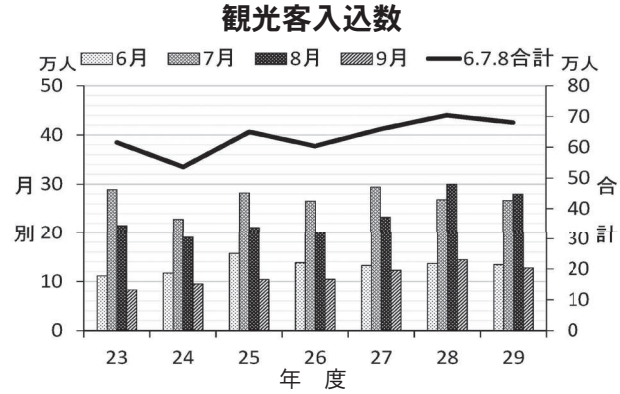
近年、積丹町のウニ漁業販売金額は単価の上昇により伸びていますが、一方で生産量は減少を続けています。近年のウニ出漁日数は海況により平均で32日と少なく、休漁が続くと入手しづらくなり、飲食店でも地元のウニを扱えないことが問題となっています。しかし、ウニ漁の期間に積丹町を訪れた観光客の入込数は喜ばしいことに増加傾向が続いています。

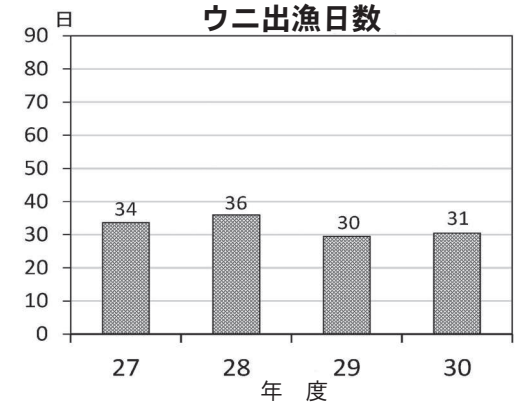
このように、ウニは需要の増加に反して供給が減少しています。漁業協同組合の生産量が減少すると、消費者がウニを買い求められなくなるだけではなく、「漁業のまち」の拠点である漁港の整備などにも影響してきます。そのため、ウニ漁業の展望が懸念されることから、さらなる対策が求められています。

▲エゾバフンウニ種苗放流









ウニの生産量を増やすために

(1) 現在の活動状況

現在、各地区の浅海部会や青年部、さらに漁業者らで構成する自然環境保護団体の「美国・美しい海づくり協議会」と「余別・海HUGくみたい」は、種苗放流やウニの餌となる海藻を増やし豊かな海を再生する活動のほか、海中篭を用いて、ウニを海面で肥育する取組も行い一定の成果が得られています。しかし、このような努力を継続している状況においても、ウニの生産量は増えていないのが現状です。

(2) 新たな取組

①海況の影響を受けない出荷体制を

各漁家が出荷できる剥き身ウニの量は、終漁時刻から集荷時刻までの限られた作業時間に制約を受けるため、1日あたりの出荷量を増やすことは容易ではありません。しかも、自然の影響を受ける出漁日数を人為的に増やすことは不可能です。そこで、出漁日数ではなく、出荷日

数を増やすことに着目し、東しゃこたん漁業協同組合は、ウニを漁獲から出荷までの間、陸上水槽で蓄養し、随時出荷できる技術を開発する試験を行いました。

平成29年度は、ウニを陸上で飼育する予備試験と、その結果を基にウニ飼育に特化した蓄養水槽を設計し、北海道の地域づくり総合交付金（総事業費：9，359千円）を活用して、東しゃこたん漁業協同組合美国支所の荷捌所に設置しました。平成30年度は、その蓄養水槽を使い6月から9月までの間、飼育条件と管理方法を確立するための試験と、身（生殖腺）の成長及び食味の調査を実施しました。

この試験でウニの確保には美国地区浅海部会と、餌のホソメコンブの供給には美国地区青年部の協力を得ました。

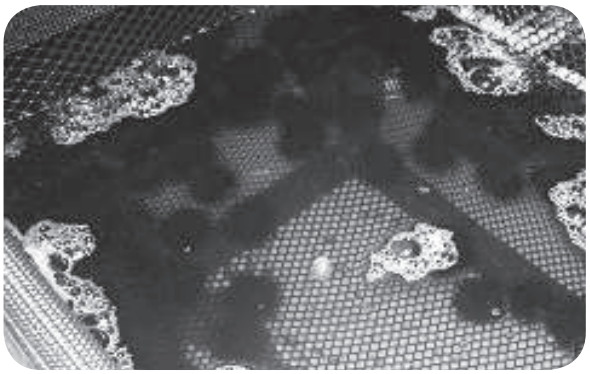
▲ウニ蓄養水槽

②蓄養試験の結果

蓄養水槽は、クーラーとヒーターが設備されており、設定した水温を保つことができます。

今年は水温を15度に設定し、夏の高水温期にもウニにストレスを与えず飼育できました。また、ウニは海水の塩分濃度が下がると死んでしまいますが、大雨で河川が増水し、海の塩分濃度が飼育できる限界を下回った時でも、水槽への給水を止めて濾過槽を使い、水質を保つことにより斃死を回避することができました。

また、ウニの身が蓄養期間中に減らないよう、養殖したホソメコンブを与えたところ、全重量に対する身の比率は、飼育当初6月上旬に約15％であったものが、8月の中旬には24％まで成長しました。その後は産卵行動に伴い徐々に下がりましたが、試験終了の9月末でも飼育当初と同じ15％台でした。



▲蓄養キタムラサキウニ

さらに、試験期間中に16回行った食味調査では、いずれも積丹町の飲食店で扱える品質のウニとしての評価を得ることができました。

このように、陸上で蓄養することにより漁期間中はいつでも、さらに、9月末までも出荷が可能であることが実証されました。

③実用化への道のり

この、ウニ陸上蓄養による安定供給を実現するためには、施設を整備するためのハード面の課題もありますが、最も重要な事業を運営する体制の構築が不可欠となります。

○ソフト面の課題

・蓄養事業及び供給体制の計画を構築

・ウニ飼育管理作業と餌料供給の体制を構築

・漁獲量が増えることに伴うウニのさらなる資源管理の推進

○ハード面の課題

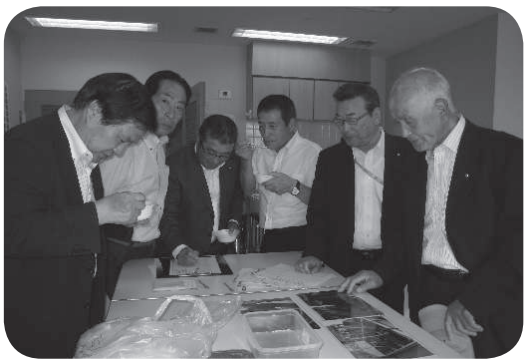
・蓄養水槽の必要台数確保

・蓄養水槽設置場所の確保

・蓄養水槽設置を収容する施設の整備

・取水設備の設置

このような実用化までの課題を解決するには、事業の実施主体であり「浜の旗手」としての役割が期待される漁業協同組合の取組が最も重要となってきます。また、漁業生産の主体となる漁業者の生産体制や意識の改革も必要となってきます。



▲食味調査

「ウニの町」積丹町のこれから

積丹町の経済を支える要となっているウニ漁業は、先に示したとおり生産量の減少など厳しい状況と言わざるを得ません。今回お知らせした方策はウニ漁業を持続させるための一つですが、積丹町の産業を支える多くの漁業者や関係者の未来のために、山積みする課題を解消してウニ漁業をさらに発展させることが必要となります。